

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部 リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)	9 人 (5 人)	4 人 (2 人)	3 人 (2 人)	5 人 (1 人)	21 人 (10 人)	14 人	16 人 (8 人)	1 人	53 人	11.9 人 (7.8 人)	学科で申請。 括弧内は専攻の該当数値
計	9 人 (5 人)	4 人 (2 人)	3 人 (2 人)	5 人 (1 人)	21 人 (10 人)	14 人	16 人 (8 人)	1 人	53 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3

	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の 理解	人間と道徳	15	村上 悦子	兼任
		哲学入門(隔年開講)	-	-	-
		倫理学入門(隔年開講)	15	川口 由紀子	兼任
		心理学	15	足立 英彦	兼任
		教育学入門	15	轟 晶晶	兼任
		文学の世界	15	酒井 志麻	兼任
		音楽の世界	15	岡部 裕美	兼任
		歴史学	15	倉橋 良伸	兼任
		行動科学入門	15	足立 英彦 金子 功一 北田 沙也加 中澤 潤	兼任 兼任 兼任 兼任
		法学入門(隔年開講)	-	-	-
		日本国憲法	15	金津 謙	兼任
		政治学	15	倉橋 良伸	兼任
		経済学入門	15	李 雨テイ	兼任
		社会学入門	15	石川 千穂	兼任
		基礎物理学(隔年開講)	15	堀米 宏	兼任

		基礎化学(隔年開講)	-	-	-
		バイオリテラシー入門(未開講)	15	早川 雅晴	兼任
		統計学入門	15	松本 暢平	兼任
		データサイエンス入門	15	松本 暢平	兼任
		人間関係論	15	足立 英彦	兼任
		国際関係論	15	倉橋 良伸	兼任
		コミュニケーション論	15	足立 英彦	兼任
		環境科学	15	泉 賢太郎	兼任
		障害インクルージョン論	15	野澤 和弘	兼任
		スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	18	中島 悠介	兼任
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	15	中島 悠介	兼任
		スポーツ健康科学基礎理論	8	遠藤 隆志	兼任
		体育実技 A	15	中島 亮一 遠藤 隆志 稲井 勇仁	兼任 兼任 兼任
		体育実技 B	15	稲井 勇仁 遠藤 隆志 中島 亮一	兼任 兼任 兼任
		体育実技 C	15	遠藤 隆志 大熊 聡美	兼任 兼任
		体育実技 D(隔年開講)(未開講)	15	馬場 宏輝 遠藤 隆志	兼任 兼任
		英語Ⅰ	15	荒金 房子 長谷川 修治 大塚 孝一	専任 兼任 兼任
		英語Ⅱ	15	荒金 房子 長谷川 修治 大塚 孝一	専任 兼任 兼任
		英会話	15	マーク レモン	兼任
		実践英語	15	荒金 房子	専任
		中国語入門	15	楊 心苗	兼任
		フランス語入門	15	小川 亮彦	兼任
		ドイツ語入門	15	パールケ ルードウィッヒ	兼任
		情報機器演習	15	川口 由紀子	兼任
		文章表現演習	15	野澤 和弘	兼任
		読書技術演習	15	横田 経一郎	兼任
		自然科学基礎演習	15	山本 雅哉 千葉 諭	専任 専任
		海外福祉研修	-	山本 雅哉	専任
		解剖学	15	山本 雅哉	専任

専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習	15	山本 雅哉 大平 雅弘	専任 専任
		生理学	30	桑名 俊一	専任
		生理学実習	15	桑名 俊一	専任
		人体機能構造学演習	15	角 友起	兼任
		運動学Ⅰ	15	池田 恭敏	専任
		運動学Ⅱ	15	三浦 達浩	専任
		運動学実習	24	三浦 達浩 池田 恭敏	専任 専任
		人間発達学	15	足立 英彦	兼任
		生化学	15	有富 桂子	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	宮澤 淳滋	兼任
		病理学	15	馬場 健	兼任
		一般臨床医学	8	前田 仁士	専任
		内科学	30	松本 良二	兼任
		整形外科学	30	渡辺 淳也	兼任
		神経内科学	30	前田 仁士	専任
		精神医学	15	荒木 均 澤谷 篤	兼任 兼任
		小児科学	8	前田 仁士 山田 慎一	専任 兼任
		薬理学	8	村山 俊彦	兼任
		救命救急医学	8	大賀 優	兼任
		栄養学	8	有富 桂子	兼任
		予防医学	15	中野 愛子	兼任
		病原微生物学	15	森 那美子	兼任
		看護学	8	小西 美ゆき	専任
		画像診断学	8	須田 匡也 布施 拓 中島 絵梨華 園田 優 安江 憲治	兼任 兼任 兼任 兼任 兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	三浦 達浩	専任
		リハビリテーション医学	8	前田 仁士	専任
		チーム医療演習	15	倉山 太一 大塚 栄子 小西 美ゆき	専任 専任 専任

専門分野		社会福祉学	15	野澤 和弘	兼任
		特別支援教育概論	8	國井 光男	兼任
		障害者・高齢者の福祉	8	佐々木かすみ	兼任
		障害者・高齢者の心理	8	佐々木かすみ	兼任
		生命倫理学	8	高石 憲明	兼任
		言語聴覚学概論	15	井関 雅雄	兼任
	基礎作業療法学	エレメンタリーセミナー	15	千葉 諭 桑名 俊一 千田 直人 百田 貴洋	専任 専任 専任 専任
		インターメディエイトセミナー	15	角 正美 倉山 太一 大塚 栄子 福山 英明	専任 専任 専任 専任
		リハビリテーション英文講読	15	荒金 房子	専任
		ステップアップ演習	15	山本 雅哉 桑名 俊一 三浦 達浩 池田 恭敏	専任 専任 専任 専任
		リハビリテーション研究法	8	角 正美 桑名 俊一 千田 直人	専任 専任 専任
		作業療法学概論	8	福山 英明	専任
		音楽療法概論	15	山崎 郁子	専任
		作業学	8	千田 直人	専任
		作業学演習Ⅰ：木工	15	小松 和人 千田 直人 岡田 哲也	兼任 専任 兼任
		作業学演習Ⅱ：織物・園芸	15	羽生 一予 山崎 郁子 表 千枝子	兼任 専任 兼任
		作業学演習Ⅲ：陶芸・手工芸	15	吉野 泰男 大塚 栄子	兼任 専任
	作業療法管理学	リスク管理学	8	長谷川 大悟	兼任
		リハビリテーション管理学	15	大平 雅弘 三浦 達浩	専任 専任
	作業療法評価学	医用画像特論	8	三浦 達浩 倉山 太一 千葉 諭 松岡 瑞雄 伊藤 正明	専任 専任 専任 専任 兼任

		作業療法評価学 総論	15	千田 直人 館岡 周平	専任 専任
		身体機能と作業 療法評価学	15	千田 直人 大平 雅弘	専任 専任
		精神機能と作業 療法評価学	15	山崎 郁子	専任
		認知機能と作業 療法評価学	15	大平 雅弘 大塚 栄子	専任 専任
		発達機能と作業 療法評価学	15	福山 英明 大塚 栄子	専任 専任
	作業療法治療学	福祉工学	8	倉山 太一	専任
		リハビリテーシ ョンとロボット テクノロジー	15	池田 恭敏	専任
		プロフェッショ ナルセミナー	30	百田 貴洋 山崎 郁子 池田 恭敏 千田 直人 大塚 栄子 福山 英明 大平 雅弘 芹澤 一馬	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
		作業療法治療学 総論Ⅰ	15	大平 雅弘 大塚 栄子 福山 英明	専任 専任 専任
		作業療法治療学 総論Ⅱ	15	館岡 周平 大塚 栄子 福山 英明	専任 専任 専任
		身体機能と作業 療法治療学Ⅰ	15	館岡 周平 池田 恭敏 大平 雅弘	専任 専任 専任
		身体機能と作業 療法治療学Ⅱ	15	池田 恭敏 千田 直人 大平 雅弘	専任 専任 専任
		精神機能と作業 療法治療学Ⅰ	15	山崎 郁子 雄鹿 賢哉	専任 兼任
		精神機能と作業 療法治療学Ⅱ	15	山崎 郁子 雄鹿 賢哉	専任 兼任
		認知機能と作業 療法治療学	15	大平 雅弘 大塚 栄子	専任 専任
		発達機能と作業 療法治療学	15	大塚 栄子 福山 英明	専任 専任
		加齢と作業療法 学	15	百田 貴洋	専任
		内部障害と作業 療法学	8	百田 貴洋	専任
		摂食嚥下の作業 療法	15	百田 貴洋 大塚 栄子	専任 専任
		日常生活活動と 作業療法Ⅰ	15	千田 直人 福山 英明	専任 専任

		日常生活活動と作業療法Ⅱ	15	千田 直人 山崎 郁子 大塚 栄子 百田 貴洋	専任 専任 専任 専任
		義肢学・装具学	15	吉野 智佳子 松岡 瑞雄 池田 恭敏 芹澤 一馬	兼任 専任 専任 専任
		卒業研究	—	桑名 俊一 山本 雅哉 池田 恭敏 百田 貴洋 千田 直人 荒金 房子 大塚 栄子 大平 雅弘 芹澤 一馬	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
	地域作業療法学	生活環境学	15	角 正美 千田 直人	専任 専任
		就労支援と作業療法学	15	百田 貴洋	専任
		地域作業療法学Ⅰ	15	百田 貴洋	専任
		地域作業療法学Ⅱ	15	百田 貴洋 芝井 孝祐	専任 兼任
	臨床実習	アドバンストセミナー	25	百田 貴洋 山崎 郁子 池田 恭敏 千田 直人 大塚 栄子 福山 英明 大平 雅弘	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
		プロフェッショナルスキル	15	大平 雅弘 山崎 郁子 池田 恭敏 千田 直人 大塚 栄子 福山 英明 百田 貴洋 芹澤 一馬	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
		基礎作業療法学見学実習	—	福山 英明 大塚 栄子	専任 専任
		地域作業療法学実習	—	大塚 栄子 山崎 郁子	専任 専任
		作業療法評価学臨床実習	—	千田 直人 池田 恭敏	専任 専任
		総合臨床実習Ⅰ	—	百田 貴洋 池田 恭敏	専任 専任
		総合臨床実習Ⅱ	—	百田 貴洋 池田 恭敏	専任 専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
リハビリテーションに関わる医療従事者の臨床業務の見学	1 年前期	エレメンタリーセミナー	1 年前期
		リハビリテーション概論	1 年前期
		作業療法学概論	1 年前期

作業療法士の臨床業務の見学	2 年前期	作業療法学概論	1 年前期
		作業学	1 年前期
		作業療法評価学総論	2 年前期
		身体機能と作業療法評価学	2 年前期
		基礎作業療法学見学実習	2 年前期
高齢期における地域作業療法の見学・体験	3 年前期	身体機能と作業療法評価学	2 年前期
		地域作業療法学Ⅰ	2 年前期
		地域作業療法学Ⅱ	2 年前期
		精神機能と作業療法評価学	2 年後期
		認知機能と作業療法評価学	2 年後期
		地域作業療法学実習	3 年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3 年前期
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3 年前期
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3 年前期
		認知機能と作業療法治療学	3 年前期
		加齢と作業療法学	3 年前期
		摂食嚥下の作業療法	3 年前期
		内部障害と作業療法学	3 年前期
		日常生活活動と作業療法Ⅰ	3 年前期
身体機能領域の作業療法評価の体験	3 年後期	身体機能と作業療法評価学	2 年前期
		地域作業療法学Ⅰ	2 年前期
		地域作業療法学Ⅱ	2 年前期
		精神機能と作業療法評価学	2 年後期
		認知機能と作業療法評価学	2 年後期
		地域作業療法学実習	3 年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3 年前期
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3 年前期
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3 年前期
		認知機能と作業療法治療学	3 年前期
		加齢と作業療法学	3 年前期
		摂食嚥下の作業療法	3 年前期
		内部障害と作業療法学	3 年前期
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3 年後期
		作業療法治療学総論Ⅱ	3 年後期

		身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3年後期
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3年後期
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3年後期
		義肢学・装具学	3年後期
		作業療法評価学臨床実習	3年後期
精神機能領域の作業療法評価の体験	3年後期	精神機能と作業療法評価学	2年後期
		認知機能と作業療法評価学	2年後期
		地域作業療法学実習	3年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3年前期
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3年前期
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3年前期
		認知機能と作業療法治療学	3年前期
		加齢と作業療法学	3年前期
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3年後期
		作業療法治療学総論Ⅱ	3年後期
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3年後期
身体機能領域の作業療法治療の実践	4年前期	地域作業療法学Ⅰ	2年前期
		地域作業療法学Ⅱ	2年前期
		地域作業療法学実習	3年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3年前期
		身体機能と作業療法治療学Ⅰ	3年前期
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3年前期
		認知機能と作業療法治療学	3年前期
		加齢と作業療法学	3年前期
		摂食嚥下の作業療法	3年前期
		内部障害と作業療法学	3年前期
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3年後期
		作業療法治療学総論Ⅱ	3年後期
		身体機能と作業療法治療学Ⅱ	3年後期
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3年後期
		日常生活活動と作業療法Ⅱ	3年後期
		義肢学・装具学	3年後期
		総合臨床実習Ⅰ	4年前期
		総合臨床実習Ⅱ	4年前期

精神機能領域の作業療法治療の実践	4 年前期	地域作業療法学Ⅰ	2 年前期
		地域作業療法学Ⅱ	2 年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3 年前期
		精神機能と作業療法治療学Ⅰ	3 年前期
		認知機能と作業療法治療学	3 年前期
		加齢と作業療法学	3 年前期
		作業療法治療学総論Ⅱ	3 年後期
		精神機能と作業療法治療学Ⅱ	3 年後期
		総合臨床実習Ⅰ	4 年前期
		総合臨床実習Ⅱ	4 年前期
発達機能領域の作業療法評価の体験および作業療法治療の実践	4 年前期	発達機能と作業療法評価学	2 年後期
		発達機能と作業療法治療学	3 年前期
		作業療法治療学総論Ⅰ	3 年前期
		摂食嚥下の作業療法	3 年前期
		作業療法治療学総論Ⅱ	3 年後期
		総合臨床実習Ⅰ	4 年前期
		総合臨床実習Ⅱ	4 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	植草学園大学自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	桑名 俊一
組織の開催頻度	年4回（令和4年度実績）
組織の取り組み内容	・自己点検評価に関する事項全般
	・認証評価に関する事項
	・学外者による評価（認証評価を除く。）に関する事項
	・学生満足度アンケートの実施
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.uekusa.ac.jp/introduction/edu_info）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	保健医療学部教務委員会
	委員構成等	学科主任、保健医療学部専任教員、学務課長
	改善の仕組みの実際	1. シラバスの点検 毎年、シラバス記載の注意事項を教員に周知し、各自が自己点検したうえで、学科主任にシラバスチェックリストを提出する。学科

		主任はチェックリストをもとに各シラバスを再確認し、必要に応じて改善指導をする。その上で、教務委員会で点検結果を報告する。 2. シラバス内容の改善 学生による授業改善のための実態調査（授業アンケート）の結果を各科目責任者が確認し、次年度のシラバス内容の改善に役立てている。なお、アンケート結果の全体については大学FD委員会が集約・分析し大学全体の授業改善につなげている。
--	--	--

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

令和6（2024）年度の評価認定審査を受審予定である。

毎年、大学の自己点検評価書を公表している。